2009年　11月号
滑稽俳句協会会長　八木　健氏　に聞く　14

紅緑偏「滑稽俳句集」を読み解く 6

2009.11.19　（聞き手　高橋素子）

高橋　前回も面白い素敵な紅緑の「滑稽俳句集」読み解き有難うございました。

子規の句
☆ **苗代や許六の蛙史邦の亀**　の「許六の蛙」
「史邦の亀」とは芭蕉の門人許六や史邦の代表句
「苗代やうれし顔にもなく蛙」（許六）「泥亀や苗代水の畦づたひ」（史邦）と教えて戴きましたね。

又、「櫻咲く頃鳥足二本馬四本」（鬼貫）が海外にも紹介されている鬼貫の自戒の代表句だったり、「我庵は都の辰巳花もなし」（鳴雪）が喜撰法師の和歌には全く無関係で粋な辰巳芸者の話だったり・・
驚くことばかり！（笑い）
とても良い勉強になりました。

会長　あまり褒めんといてください。（笑い）
★　**持ち上げてつぎには落とす亥の子かな**
ですね。

高橋　そんな事しませんよ。でもお望みならやらせて戴いてもいいですよ・・（笑い）

事実、驚く事教えて戴いて、毎回とても良い勉強させて戴いていますが・・・

それでは、今日は「春植物」の部門「桃」のこの句から始めさせて戴きますね。

☆ **喰ふて寝て牛にならばや桃の花**　蕪村

取り合わせの句ですね。
昔から食べてすぐ寝ると牛になると言われてますから、蕪村の願いはすぐ叶いそうですね。（笑い）

会長　ならばや・・には願望がありますね。
食べてすぐ寝ると牛になる・・この諺は無作法をたしなめるために使われていますがしかし、蕪村はあきらかに至福の境地になりたいとして使っています。それが可笑しいのです。

高橋　桃の句、続けますね。

☆ **昔爺と婆と住みけり桃の花**　子規

昔話「桃太郎」にヒントを得ての作ですね。

☆ **桃のこれ李はちるに忙しい**　紅緑

「のこれ」と呼びかけています。「李」は「すもも」ですね。

子規の句はこれから昔噺が展開しそうですよ。

会長　子規は雑学博士みたいなところがあって諺を分類したりしてますからね。　楽しみです。

高橋　次の季語は「李」鳴雪の句ですよ。

☆ **人吝き隣の李ちりにけり**　鳴雪

「けちな隣人のすももが散っている」
と詠む作者の心中には、少しあざけりの心も感じられますよね。（笑い）

会長　★　**吝(しわ)き人鳴雪翁に嘲(あざ)けられ**
ですね。

高橋　次にゆきますね。
季語は「藤」です。

☆ **葡萄棚と見しは仇なり藤の花**　紅緑
☆ **藤とれば屋根がなくなる庵哉**　紅緑

最初の句は「仇なり」ですから、紅緑のうらめしい気持ちが分りますね。
二句目は、藤棚の屋根の庵とは風流ですね。

会長　自然と一体化した暮らしですね。贅沢でしたね。

高橋　☆　**配軍に蒙汗剤や藤の花**　紅緑

配軍？蒙汗剤？何でしょう？ご解説下さいね。

会長　「配軍」は敵対するという意味でしょう。
蒙汗剤ですが・・仮名手本忠臣蔵の翻案・忠臣水滸伝に蒙汗剤が出てくるんですね。
敵を痺れさせる薬です。
アルカロイドが含まれている。
それが藤にあるらしいんです。
とりあわせの句ですが美しい藤の花も猛毒を秘めているというところが可笑しいのです。
私も最近足先が痺れるんですがひょっとすると・・

高橋　どなたか会長の周りで、藤の様な方が、会長に毒

薬を少しずつ・・（笑い）
笑い事ではありませんが、それにしても科学的な句ですね。　続けま～す。

☆**莟とはなれもしらずよ蕗の薹**　蕪村

　　そう言えば、蕗の薹等が伸びて花が咲き、この花の呆けたものは「蕗のしゅうとめ」と言われ、季語ですね。

会長　　たしかに、蕗の薹は花の莟(つぼみ)・・では、何だと思っていたのでしょうか
「お前さんも知らない」が前提の句ですね。

高橋　☆**人となり吝にして辛き山葵かな**　紅緑

　　季語「わさび」の取り合わせの句ですね。

会長　吝で辛い人となり・・イヤな奴ですね。親しい人を罵倒して楽しんだのでしょう。　座の文芸は笑いが必要ですからね。
倒置して「山葵かな」を上五に置く

☆　**山葵かな人となり吝にして辛き**
とすると良くわかります。

高橋　成る程、倒置しただけで意味がはっきりして来ましたね。次の季語は「菜の花」ですよ。

☆**菜の花に婚禮したる狐かな**　子規
☆**馬の首人の首行く菜種哉**　飄亭
☆**菜の花に晝の月赤き蝶を飛ばすべく**　虚子

　　二句目飄亭の句は菜種畑の向こうを通る馬と人の首だけがこちらから見えるわけですね。
子規と虚子の句、ご説明戴けますか？

会長　子規の句は　菜の花を狐火に見立てたのでしょう。

虚子の句ですが　菜の花と月は昔からワンセットです。晝の月で切れます。

「赤き蝶を飛ばすべく」　赤い蝶は目の前に存在しません。　願望なんです。
菜の花の黄色　白い月・・絵画的に言えば、ここには赤い蝶が必要だと虚子は感じたのです。
舞台はできていますよ　さあ赤い蝶さん
あなたの出番です・・と

高橋　☆晝の月で切れるのですか？　菜の花の黄、月の白、蝶の赤・・カラフルな素敵な句なのですね。

☆　**風呂敷の穴や首出す土筆**　紫人
季語は「土筆」、字足らずの句ですね。

会長　「つくづくし」とすればよかったんですね、土筆を摘んでの帰り道の出来事です。土筆を擬人化しているから可笑しい

高橋　次の季語は「蕨」ですよ。

☆　**足柄の山に手を出す蕨かな**　也有
☆　**３になり９になり蕨伸びにけり**　紅緑

両者共、句の意味はよく分かります。蕨の姿を面白く写生したものですね。

会長　足柄の山に手を出す・・也有の句は大きいですね。小さいものが特大のものに「手を出す」とした。無謀ともいえる。そこが可笑しいのです。

紅緑の３になり９になり・・
これは写生がうまいですね。数字と似ているかたちを発見した。すなわち　滑稽ということです。

高橋　次は、「蒜」ですよ。

☆ **婿入の其日は蒜を食はさりし**　紅緑

蒜はネギ・ニンニク・ノビルの総称という事ですから、強い臭いのあるものばかりですよね。
婿入の日にこんなもの食べたら、花嫁に嫌われるに決まってますよね？（笑い）

会長　精力増強に効果があるから食べたほうがいいと思ったのかも知れませんよ。（笑い）
婿入の其日は蒜を食ふてゐる・・では
詩が失せてしまいますね

高橋　次の季語は・・「蒲公英」ですね。

☆**蒲公英の色を巧に出す油畫かきの恋**　紅緑

野にある蒲公英の純で素朴な黄色・・油畫かきの恋が目に見える様ですね！
ゴッホはきっと、燃える様な熱烈な向日葵の色の様な恋をしたのでしょうね。

会長　ゴッホは情熱家でしたからね。　さまざまな恋に破れ疲れ果てて自ら命を絶つ・・わけですね。

高橋　「春植物」の部分がやっと終わりましたよ。

次は、「春動物」の部門に進みます。

季語は「鶯」です。

☆ **鶯にあてがつておく垣根かな**　一茶

この句は、加賀の千代女「朝顔につるべ取られてもらい水」と同じ読み手の心境ですね。
朝顔が鶯に、つるべが垣根に変わったと言う具合ですよね。

会長　これは　鶯の声を聞きたいので目隠しをするわけです　。人間の姿が見えなければ鶯は安心して美声を聞かせてくれるでしょうからね。

高橋　☆**鶯のうたた目白の目を妬む**　子規
これはお任せしますね。

会長　ウグイスと目白は良く似ていますね。
目白は目の周囲に白いラインがありますからモダンな感じがします。鶯の身になれば妬むと子規は思ったのです。

高橋　続けますね。

☆**鶯に窓明けたりや肥取か**　紅緑

鶯の糞は美容に効果があると言われてますよね。
だから窓を明けて置いて糞を集めてるのですね。
糞集めの事を肥取りとふざけてるのですよね。

会長　肥取りは農業のために重要な仕事でしたね。
一年分の屎尿を提供して大根何本とか米何俵とか・・鶯の糞をとるのはまさに肥取りですね。
不似合いなふたつのものを同等に扱うと可笑しいが出てくるのです。

高橋　　次の季語は「燕」です。

☆ **大佛の鼻から出たる燕かな**　一茶
☆ **燕の巣を覗ふて蛇に驚く**　虚子
☆ **燕の肩で風切る威勢かな**　格堂
☆　**燕は短気な鳥と雀かな**　紅緑

ご解説お願い致しますね。

会長　☆ **大佛の鼻から出たる燕かな**　一茶

おそれ多くも佛さまの御鼻の穴を勝手に出入りするとは・・燕だから仕方ない。権力をからかってる風なのも可笑しいですね。

☆ **燕の巣を覗ふて蛇に驚く**　虚子

あるんですよこういうことが・・

☆ **燕の肩で風切る威勢かな**　格堂

つばくら・・と読む
風切る・・そう言えば燕は肩を張ったような感じですね。

☆　**燕は短気な鳥と雀かな**　紅緑

燕は、動きが早いからねえ時速100キロとか、150キロでしたか・・
どうでしょうか。　こうしてみてゆきますと当時の滑稽句は肩肘はらずまさに軽い「ふふふ」を楽しむ風なところがありますね。

高橋　それでは終わりに、会長の最近の句の中から同じ季語の句を独断と偏見で勝手に選ばさせて戴いて、１００８年前の滑稽句と比較させて戴きます

ね。

ただし今回は、ご自身の句の解説も会報誌の七選の句同様に、五七五調でお願い致します。（笑い）

★ **白梅の白告白と同じ白**　健
★ **引力の平等藤の房垂れる**　健
★ **　薹の字は象形文字か蕗の薹**　健
★ **菜の花の色に塗り変えられし土手**　健
★ **土筆一族袴に威儀を正しゐる**　健
★ **蕨てふ地名なれども薇も**　健
★ **大蒜の一片拝み料理長**　健
★ **たんぽぽのやうに生きよと地を叩く**　健
★ **法華経と鶯の鳴く寺の庭**　健
★ **産婦人科医院に生まれ燕の子**　健
★ **西洋と名づけタンポポ帰化させず**　健

会長　★　**白梅の白告白と同じ白**　健

良くみれば染み告白の白文字に

★ **引力の平等藤の房垂れる**　健

藤の風流ニュートンの林檎より

★　**薹の字は象形文字か蕗の薹**　健

蕗の字は草冠に路と書き

★ **菜の花の色に塗り変えられし土手**　健

これまでは焦げ茶系統の土手だった

★ **土筆一族袴に威儀を正しゐる**　健

土筆家のデカイのが父子はちさい

★ **蕨てふ地名なれども薇も**　健

蕨と薇の字も随分と似ているね

★ **大蒜の一片拝み料理長**　健

隠し味なくては揮えぬ腕なのか

★ **たんぽぽのやうに生きよと地を叩く**　健

お説教が好きな父さの名文句

★ **法華経と鶯の鳴く寺の庭**　健

まあるほどこの梅の木はナンマンダ

★ **産婦人科医院に生まれ燕の子**　健

医師不足知つているのか頼らない

★ **西洋と名づけタンポポ帰化させず**　健

排外思想未だ健在だったとは

高橋　ふふふふ！
いつも通り五七五調の面白いご解説ですね。
それに、毎回少しずつ賢くして戴ける様な気がして・・（笑い）
読破のあかつきにはと思うと、とても楽しみになって来ました。

会長　知る喜びがありますね。
１００年余昔の滑稽と今の滑稽観と、どこが異なるのか地道に読み解きましょう。

（2009年11月号）